

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775502335		
法人名	特定非営利活動法人すみれ		
事業所名	グループホームすみれ八尾		
所在地	大阪府八尾市太子堂2丁目4番6号		
自己評価作成日	平成23年12月1日	評価結果市町村受理日	平成24年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年1月24日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>“日々の時間の流れを大切に、いきいき元気ある暮らしを育む、運営理念とする。アットホームな雰囲気です。入所者のADL能力を維持、又能力を引き出すための視点を持ち日々支援している。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>長年、福祉の現場に熱く関わってきた理事長は「自分の家のように落ち着くホームをつくりたい」との思いから民家改修型の「グループホームすみれ八尾」を設立した。ターミナルケアを見据えての長期の介護には、“利用者の安全、と”安定した職員の確保、の為に福祉用具の活用は必須と考えており、ベッド・トイレ・浴室へのリフトの設置や利用者が快適に暮らせる為の様々な工夫が見られる。終末期対応についてはこれまで8件の事例があるが、家族からは感謝の声が寄せられている。又、園芸療法も取り入れ、庭先の四季の花々を肌で感じてもらい、利用者の状態の変化や好み、能力を見出している。居間は利用者の書道展出品作品表彰状や手作り作品が飾られ、落ち着いた家庭的な雰囲気である。職員の育成にも力を入れ、研修参加・介護資格取得にも熱心に取り組んでいる。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・運営理念をわかりやすい言葉で表現し、施設内に掲示している。 ・入所者のADL能力を把握、希望を把握し、日々の作業に取り入れるよう努めている。	「日々の時間の流れを大切に、いきいき元気になる暮らしを育む。」を運営理念に掲げ、玄関・事務所・居間等複数個所に掲示している。職員全員がその理念を共有し、日々のケアに反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の行事に積極的に参加。 ・近隣喫茶店(特養内)、理髪店を利用している。 ・外気浴時、通りがかりの人と会話する。	自治会に加入し、夏祭り・敬老会など学校、地域の行事に積極的に参加している。近くの八百屋への買物や散歩時の挨拶、他の施設との交流など近隣の人々と触れ合う機会は多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実施されていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議で、活動状況をDVDで観ていただく。 ・助言を日々のサービスに活かしている。	高齢福祉課・民生委員・知見を有する者・高齢クラブ・家族・理事長・管理者・事務長らの参加で、2ヶ月に1回開催。報告・情報交換を行い、評価結果も踏まえ、参加メンバーからの助言を得て、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所連絡協議会、市主催研修会に積極的に参加している。	折に触れ、相談事や事業所の現状を伝えるなど市担当職員とは、密に連絡をとり情報の共有につとめ、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の人権を守り、ケアを基本とし、安全で自由な暮らしを支援する工夫に取り組んでいる。	利用者の権利擁護や身体拘束に関しての勉強会を実施しており、全職員が共有し理解している。事務所に職員がいる場合は施錠はしておらず、不在時には施錠しているが、一人ひとりのその日の状態を把握し、見守りを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修を受講し、事業所内にて伝達、お互い共通認識する。又、不適切な対応を感じたら早期に確認、指導にあたる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修参加、伝達研修実施。必要利用者に対しては活用する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明、契約書を読み合わせ、説明、質問を受け、納得の上契約を交わす。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ホーム内に意見箱を設置。 ・面会時又都度情報交換し、積極的にコミュニケーションを図っている。	運営推進会議や家族会・家族訪問時に意見や要望など言いやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見や要望は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回①全体会議②フロアミーティングを開催、管理者、理事長も出席、出た意見を取り上げ検討課題とし、日々の介護に反映させている。	全体会議やフロアミーティングでの職員の意見や要望を取り入れ運営に反映させている。研修や「全国認知症グループホーム大会」へは全職員が順次参加できるようバックアップしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持てる職場環境作りに配慮されている。業務評価を実施し、賞与への反映に結びつけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回勉強会実施。実技研修等テーマにとり入れ、スタッフのスキルアップにつなげている。経験年数、習熟度に合わせ、外部研修受講。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くの特養への訪問。特養のアクティビティを学んだり、情報をもらったりしている。又、喫茶室や体重計等の利用もさせてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の施設見学、本人と家族様共に随時設定。事前面接、アセスメント実施する中で、本人、家族の希望、又困っていること、不安な点を徴収し、対応法を共に検討し説明する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅生活における問題点を聞き、家族の不安、困っていることを受け止め、入所後の生活スタイル対応を説明。安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、問い合わせ時にまず現状を把握、適切であると思われるサービス、施設の紹介を含め説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者の生活歴、趣味、残存能力を把握し、又未来の展望を設定した上で可能な活動に結びつけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・月1回の便り発行。本人の状況報告、行事日程の事前お知らせ、参加を呼びかけている。 ・本人の活動力etcの共通認識。 ・夏、冬衣替えの呼びかけetc、積極的参加を呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・本人の使いなれた家具etcの持ち込み ・知人等の面会呼びかけ ・行きつけの美容院の利用 ・商店街、又喫茶店の利用に努めている。	知人等への訪問の呼びかけや、近隣の施設との交流、商店の利用等で馴染みの関係の構築や継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・個々の関係を日頃より把握して席順など決め、よりよく刺激しあったり、協力しあえる環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ入居者された利用者からの問い合わせに対しては、受け入れをしている(していた)。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意向を聞き、出来る限り沿った対応となるよう検討。活動をとり入れている。意思伝達が困難な人も表情でよみとったり家族様からの情報を得、希望を把握。	日々のかかわりの中で、その言葉や表情から本人の思いや意向を把握し、できる限りその暮らし方の希望や意向に沿うよう工夫、対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、入所時のアセスメントの中で個々諸々情報を得、入所後の生活環境に反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムの確立のために、残存能力等状況を把握する。又かくれた能力の発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の機能状態を把握した上で、本人家族の希望を聞き反映している	アセスメントシート・毎日の介護チェック表を基に本人、家族の思いや意見を反映し、月1回のカンファレンスにて介護計画を検討、作成している。家族の要望や状況の変化があればその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケースファイルに日々の生活状況を記録。色々な場面での様子を報告し合い情報共有し、今後の支援に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状態観察に注意を深め、必要に応じて要望に応える支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティアを導入し、関わりを深めるよう努めている。・民生委員より地域活動の情報を得て参加している。・避難訓練にて消防署員との関わりを持っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、家族の同意、納得の上協力医療機関で受診している。 ・必要に応じ眼科、泌尿器科受診している。	月2回の内科医の往診があり、緊急時の受入れ等医療面での支援体制ができています。週1回の歯科医の往診がある。受診結果は変化があった場合家族に報告し、職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の状態、変化、気づきを主治医に報告、連絡、相談し、一人ひとりの健康管理につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人、家族の意志確認のもと、早期退院にむけ医師と病状確認etc連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応について入所時又状況に応じ、家族、本人の意向を主治医同席で確認している。事業所として「できること、できないこと」を明確にし、三者一丸となり同じ方向で関わりができるよう努めている。	本人や家族の意向を踏まえ、医師・職員が連携をとり、随時意志を確認しあいながら「今後の生活における対応についての同意書」を取り交している。終末期の対応について、これまで8件の事例があり、家族から感謝の声も寄せられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時の対応を年間研修のテーマに取り入れている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・消防計画を消防署へ提出 ・消防署立ち会いの避難訓練実施 ・近隣への協力体制のお願い実施などに努めている	前回の評価も踏まえて、近隣一軒一軒への協力体制のお願い実施や災害に備えての備品の準備、スプリンクラーの設置等事業所ができる事は全て行っているが、更なる近隣との協力体制が望まれる。	前回よりステップアップしているが、昨年の大震災を踏まえ、敢えて課題項目とした。更なる地域との役割分担等具体的な協働体制の構築と機会ある毎に多様な避難訓練を行う事が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの人格を尊重し、関わりを持っている</li> <li>職員の声掛け、働きかけに注意しあっている。</li> <li>個人ファイルを事務所内に保管</li> </ul>	秘密保持と個人情報の保護を定めており、個人ファイルは鍵のかかる書庫に保管している。一人ひとりの人格を尊重し、本人が傷つかないさりげない声かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの表情や動きを注意深く観察し、サインとしての表現を見逃さないように努めている</li> <li>自己選択しやすいような質問の仕方に努めている</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合、業務優先は禁止、その人らしく、笑顔の日々を送っていただけるよう関わり、支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>髪型は希望を聞いている</li> <li>モーニングケア、ひげそり、ブラッシング、本人の機能を使って実施</li> <li>メイクセットも希望に応じ準備している。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理下ごしらえ(皮むき、材料切り)配膳、盛り付けを能力に応じ実施。本人達が準備したものであることを話題に取り入れながら一緒に食事を楽しむ。</li> </ul>	食材とメニューは業者から配送されるが週2回はオリジナルメニューで利用者と相談しながら決めている。調理・皮むき・食器洗い等利用者ができる事を共に行っている。焼肉・お好み焼・回転寿司等外食を楽しむ機会も多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>水分不足にならないよう要求時プラス定時補給に努めている。</li> <li>個人に合わせた食べやすい食器の使用。又食材の状態(きざみ、ミキサー食)に配慮</li> <li>体重の増減を把握し、食事量の加減に努めている</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの実施に努めている。必要に応じ食前の口腔ケアの実施にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用により個々の排泄パターンの把握に努め声かけ誘導に努めている。実際に失敗の減少につながり、トイレの排泄となっている。	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らってさりげなく誘導するなどの支援に合わせて、トイレ用のリフトを設置しており、昼間は全員トイレでの排泄となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便にむけ、腹部マッサージ、運動、食物の工夫に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の声掛け、関わり（歌を唄う）をすることで楽しく入浴していただけるよう努めている。	基本は週2回の入浴であるが、利用者の希望があれば柔軟に対応している。入浴用リフトの設置により、全員がゆっくり浸かることができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズム、状況に合わせて、入床時間を変えている。環境作りすることでスムーズな入眠となるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の理解を深めている。日付、名前の声だし確認、服薬チェックすることで、飲み忘れ、誤薬のないよう努めている。本人の身体、精神状態を主治医に情報提供することに努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意とすることを見極め日常家事などの役割を担ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体状況、天候を把握し、外出の機会を設けている。近くの特養喫茶室利用後の談話を楽しむ等実施。	散歩・買い物・喫茶・外食・花見・夏祭り等機会を捉えて車や車椅子等も利用し、積極的に外出の支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在、所持を希望する人がいない。 ・希望があった場合、可能な限り所持できるよう支援に努める。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添い手紙を書いたり、電話をつないだりの支援に努める。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング(共用空間)には入居者様作成の季節折々の作品を飾るなどし、心地よい環境作りに努めている。	居間の壁には書道展に出品した作品と表彰状や手作り作品等が飾っており、落ち着いた雰囲気である。浴室、トイレにはリフトが設置しており、程よい広さをもっている。居間、台所は家庭的な居心地のよい温かさを感じる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室を利用し、ひとりになったり気の合った人との時間がとれるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具、生活用品、仏壇等の持ち込みにより自宅の雰囲気を作り出せる工夫をしている。	家具、写真、利用者の手作り作品等で飾り、それぞれの利用者の居心地のよい居室づくりに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室に表札、トイレの入り口に明記、花飾りなどし、わかりやすくしている。 ・夜間にも安全にトイレ利用できるよう洗面台の灯りをつけるなどの工夫をしている。		